

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム みなみ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 渡邊 徳人

評価完了日 平成19年10月22日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、住み慣れた地域で安心した暮らしができるような理念を現在検討中である。	○	ホームに合った新しい理念をスタッフ全員で話し合い作りあげる。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	以前の理念は毎日目にしてたが、十分共有できているとはいえない。	○	新しい理念を作り上げ、スタッフ会議や日々の業務の中で理念の具体化について話し合い、理念の実現に向けて取り組んでいきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域向けにホーム広報誌「みなみ便り」を発行しており、その中で介護保険の事などを紹介し、地域にグループホームの役割を認識して頂けるように働きかけている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の方と散歩などに出掛けた際は、近隣の方々と挨拶や話しをしホーム行事にお誘いするなど、触れ合う機会が多い。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や芋煮会などに参加している。又、中学生の職場体験も受け入れており、地域と積極的に交流する機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の場やホーム行事の際に、地域の方に認知症の相談や周辺症状について理解して頂けるように話しをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を職員に伝えており、評価結果を踏まえて改善に取り組んでいきたい。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	スタッフ会議毎に運営推進会議の内容を報告し、検討事項については職員で話し合い、次回の運営推進会議で結果報告できるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の方にも出席して頂き、ホームの実情を知って頂き、助言頂いている。又、地元社協紹介のボランティアの受け入れを実施している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は理解しているが、全職員が理解しているとはいえない。	○	全職員が理解できるように、ホーム内勉強会を開催し活用できる体制を整えていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議、ケース会議の中でも議題に設けスタッフ一人ひとりが細心の注意を払いながら防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間を十分にとり説明し、疑問点や不安があれば随時、相談を受け入れている。又、重度化についての対応についても入居時に話し合い、理解を得るようにしている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や態度から思いを察することができるように努めており、出された意見については職員間で検討し改善できるようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ご家族には入居者の方の近況や通院記録、領収書を送付し、又、緊急時は電話連絡を取り連携が図れるように働きかけている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月のお手紙や面会時などに問いかけ何でも言うていただけるように働きかけている。又、運営推進会議メンバーにご家族代表の方もいらっしゃり、意見や要望をホーム運営に反映できるように努めている。	○	ご家族は意見や要望を出しにくいことを理解し、苦情受付ポストや匿名のアンケートを実施するなどし、要望をすいあげる事ができるような仕組みを作っていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望を聞くように心がけているが、不満や苦情は言い出しにくい事もあり、十分把握されていない事も考えられる。	○	もっと気軽に話せるような雰囲気作りや日頃のコミュニケーションに努め、提案を聞く機会を設けていきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	変則勤務の時間帯は利用者の状況に合わせて組まれており、必要に応じて調整している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を認識し職員交代を行なう場合は十分検討しているが、急な離職などにより人事異動の時など引継ぎ期間を十分に取れない場合もある。	○	顔馴染みの職員による継続的なケアを心がけ、職員交代の場合もスムーズに移行できるように配慮していく。また、職員が長期的に継続勤務できるように、待遇面、福利厚生面の改善の検討を行い、働きやすい環境の提供ができるよう施策していきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保、向上に向けた育成の必要性を認識しており、職員の立場に応じて法人内研修として新入社員研修、計画作成者研修を実施している。又、事業所内外の研修に参加した職員は研修報告書を作成し、職員会議で発表してもらい、知識・技術の共有化を図っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所職員が集まり学習会を設け、意見交換できるように進めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が入居者と離れて一息入れられる場所や時間の確保ができるように努めている。又、法人内に相談窓口を設けてあり、さまざまな相談を受け対応していくことで、ストレスの軽減・背景を理解する取り組みを行なっている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法や労働安全衛生法に則って、労働条件を整え、健康診断を実施している。又、運営者は事業所でおきている状況変化の把握に努めており、事業所や職員が向上心を持って働けるように、事業所、職員評価を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方のお話しや生きてきた人生、考え方を学び、本人の思いを十分聞く事が満足感、精神の安定につながっていく事を理解し共に分かち合える関係作りに努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話・手紙等で日々の暮らしの出来事や気づきの情報をその都度共有するように努めている。	○	入居者の方の状態にもよるが、ご家族と外泊することでご家族との関係を再確認でき、安心される入居者の方もいらっしゃるの、ご家族と職員と一緒に入居者の方々を支えあう関係作りをよりすすめていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の方々それぞれに家庭の事情があり、それを理解した上でよりよい関係が継続できるように、心掛けている。	○	ご家族が定期的に来られない時が続いたりすると次第に本人とご家族との絆が弱くなっていくことを感じるので、入居者とご家族との関係が継続できるような働きかけ(面会、行事、外泊の機会作り)をしていく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに来て頂いた時は、ゆっくりとくつろいでお話しして頂けるような環境作りに心がけている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士がうまく関わっている場合、スタッフは深く立ち入らず、見守るようにしている。又、他入居者の動向が気になる方には、スタッフがなるべく関わり、話題を提供し入居者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了された方にも遊びに来て頂き、継続的なお付き合いができるように心がけている。	○	契約が終了してもご家族との関係が続くような、又、よい思い出が残るようなホームを目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から少しでも入居者の思いや意向を汲み上げ検討し、意思伝達が困難な入居者の方でも、毎日の生活の中から意志表示されていることを考えながら、把握するように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後の様子を観察し、その中で知り得る事を蓄積し、ご家族が面会にいらっしゃった時にも以前の暮らしぶりを聞くようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活状況、健康状態をケース記録に記入している。また、職員間の申し送りをし、職員同士の意見交換をしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議やスタッフ会議を定期的に行い、各スタッフが知り得た情報を共有し、意見交換を行ない介護計画に反映させている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態変化があった場合は家族等と話し合い、状態変化に応じた計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や変化、利用者の言葉をケース記録に記入している。食事量、水分摂取量、バイタル等を生活チェック表に記録し、状態変化時には職員間で話し合う機会を設けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の場で地域の情報を頂き、地域の行事に積極的に参加し、老人会との交流も図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外のサービスを利用している方が今の所いっしょにないので、今後は活用できるように努めていく。	○	当ホームでの生活が困難になられた場合など、相談にのってより良いサービスが受けられるように支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、地域包括支援センターを通じて他事業所や地域環境の情報交換や協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人またはご家族が希望する医療機関を確認して、適切な受診が支援できるようにしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	神経内科の医師と協力関係を築いており、職員の相談に応じて頂いたり、利用者の症状に応じて助言や指示を仰いでいる。		
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族と共に主治医や医療相談員と密に話し合いの場をもち家族の声を聞きながら早期退院に向けた支援を行なっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取り等についての事前意志確認書を頂いており、ご家族の意向を把握し尊重できるように取り組んでいる。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族には入所の段階から事業所の対応できない部分を説明し、納得して頂いている。重度化してきた入居者に対しては変化があれば随時、医師と連携し家族とも意志を確認しあいながら支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご家族より以前の暮らしぶりを聞き、入居時には愛用の物を持ってきて頂き、暮らしの習慣が継続できるように支援している。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居時に「個人情報使用に関わる同意書」を説明して同意をもらい関わり方に注意をはらっている。又、職員も個人情報に関わる誓約書を入職時提出しており漏洩防止に努めている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>スタッフの考えを押しつけず、入居者の思いや希望をできるだけ取り入れられるように、入居者と話しをしながら支援している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の体調に配慮しながら、散歩や入浴等、その時の気持ちを尊重し、押し付けることがないように対応している。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>季節にあった好みの服装ができるように、声がけ、見守りを行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物、嫌いな物を把握し、季節の食材を取り入れるように配慮している。又、入居者の方の状態もありスタッフと一緒に調理することは少ないが、片付けなどは入居者の方の体調をみてお手伝い頂けるように支援している。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者一人ひとりの好みものを把握しており、他入居者への影響も考慮しながら、嗜好品を楽しんで頂けるように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツやパットは入居者の排泄パターン、状態に合わせて使用している。トイレ誘導やオムツ交換の際は、プライバシーや羞恥心に配慮している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者が入浴をした日を職員が把握し、入居者の希望を確認しながら、希望のある日、好きな時間に入浴して頂いている。湯温も好みに合わせて対応している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動をうながし睡眠が取れるように支援している。又、日中の個別の疲れ具合にあわせて休息を取り入れ、穏やかに就寝できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	日々の会話の中で、入居者に合わせた役割をみつけ仕事を頼み、日々の楽しみを持って頂いている。職員は入居者に感謝の言葉を伝えるようにしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している (認知症対応型共同生活介護)	基本的にはご家族から同意を得てホームで管理しているが、外出や買い物に出掛けた際はお金を払って頂ける場面作りをするように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している (認知症対応型共同生活介護)	希望や要望があれば本人の体調、気候に応じて出来るだけ外出するようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している (認知症対応型共同生活介護)	月1回程度、行事を通して普段行けない所に外出するようにしている。又、ご家族の方と連絡をとり外出する機会を増やせるように働きかけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている (認知症対応型共同生活介護)	プライバシーや家族関係に配慮しつつ、日常的に利用できるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している (認知症対応型共同生活介護)	ご家族や知り合いの方がいつでも面会に来て頂けるように、来やすい空間作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがあり職員に周知徹底を図っている。精神的な拘束にも注意し、入居者の人権を尊重している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中入居者が外出していきそうな気配を察知し、見守りやさりげなく声をかけ一緒についていくなどし対応している。入居者が監視されているという意識を特に持たないように、声掛けや距離に注意している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員が作業しつつ見守りを行なっている。夜間は1～2時間毎に巡視の他にも、物音がすれば様子を見に訪室し安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に応じて物品を置いている。入居者が針とハサミを使用した後は、スタッフが本数を確認し安全管理に努めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険や気づいた事はケア会議やスタッフ会議で話し合い未然に防ぐ取り組みを実施している。事故が発生した時は事故報告書を作成し発生原因、今後の予防について話し合い再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり全職員がいつでも対応できるようにしている。応急手当の講習には積極的に参加するようにしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を通じて地域の協力を呼びかけている。消防署指導のもと避難訓練や消火器の使い方など訓練を定期的に行なっている。	○	年に1度はホームの避難訓練に、地域住民の方に参加して頂けるように、運営推進会議を通じて地域との協力関係の強化を図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や毎月1回ご家族に担当スタッフが手紙を書き、その中で現在の状況や今後起こりえるリスクについて報告し、緊急の場合は電話連絡を行ない、協働できるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	生活チェック表や申し送りで入居者の身体状況を職員間で共有し、体調変化や異変が早期発見できるように努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬記録にて内容を把握している。薬の変更においては、随時申し送り、確認している。記録はわかりやすく記入し、家族にも情報提供している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	生活チェック表を使用して水分量や排便、排尿等を把握して、その都度服薬や運動で対処している。	○	運動量が不足しているので、おやつ前にラジオ体操等を行なっていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後、声掛けを行ない一人ひとりの力量に応じて、見守り、介助を行なっている。必要な方に義歯の消毒を行なっている。	○	食後のうがいを毎日行なって頂けるように、洗面所に個別のうがいのコップを用意し、スタッフが見守り、介助を行ない、毎食後の習慣にしていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、入居者別に食事や水分の摂取量を記録している。献立や食材は業者に委託してありカロリー計算がされている。	○	1週間や2週間に1度は、夕食を入居者の方々の希望メニューの日とし好きな物を召し上がって頂けるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行ない、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。また、利用者及び家族に同意を頂き、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、毎晩漂白し清潔を心がけている。調理器具、台所水回りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて、実行している。食材は外注であり新鮮で安全な食材を使用している。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者や家族近隣の住民等の視点に立って、違和感や威圧感がないような配慮をし入居者の暮らし場所として安堵感を持ってもらえるように玄関回りや建物周囲の工夫を行なっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に季節の花を飾り季節感を感じて頂けるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルや椅子は、その時々入居者の状況に応じて配置し、仲の良い入居者同士で過ごせるようにしている。新聞を読んだり、一人で過ごしたい時はソファが活用されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れたなじみのものを置いておく など、本人や家族と相談しながら個別に応じた工 夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	天気や外気温を考慮して空気の入替えや、温 度調節について職員は常に意識して行なっ ている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	身体機能の変化に応じ、トイレの手すりを使 いやすい位置につけたり入居者の活動性を維持す るために必要に応じて車椅子を利用する工夫をして いる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱を招くような環境の原因は速やかに補修 し、入居者の状態に合わせて目印を表示して いる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	畑を確保しており入居者が日常的に楽しめるよ うになっている。又、玄関先のベンチでのんびり 過ごせる環境を作っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ○ ⑤その他(職員が通院に同行し、職員数が限られてしまう時などはすぐに対応できない場合もある。)
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ 平穏な生活の中にも季節の移り変わりなどを感じていただく為に、行事の際は、季節感のある料理を召し上げて頂いたり、外出をするように心がけている。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム みなみ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 渡邊 徳人

評価完了日 平成19年10月22日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、住み慣れた地域で安心した暮らしができるような理念を現在検討中である。	○	ホームに合った新しい理念をスタッフ全員で話し合い作りあげる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	以前の理念は毎日目にしてたが、十分共有できているとはいえない。	○	新しい理念を作り上げ、スタッフ会議や日々の業務の中で理念の具体化について話し合い、理念の実現に向けて取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域向けにホーム広報誌「みなみ便り」を発行しており、その中で介護保険の事などを紹介し、地域にグループホームの役割を認識して頂けるように働きかけている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の話し合い等に参加しホームの理解が得られるようにしている。又、挨拶や日常会話により円滑な人間関係が構築できるように努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊りや芋煮会などの地域の活動に参加するよにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の場やホーム行事の際に、地域の方に認知症の相談や周辺症状について理解して頂けるように話しをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価やサービス評価の意義を理解し、話し合いを行ないサービスの改善及び向上を目指している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スタッフ会議毎に運営推進会議の内容を報告し、検討事項については職員で話し合い、次回の運営推進会議で結果報告できるようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の方にも出席して頂き、ホームの実情を知って頂き、助言頂いている。又、地元社協紹介のボランティアの受け入れを実施している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は理解しているが、全職員が理解しているとはいえない。	○	勉強会や研修の機会があれば積極的に取り込み、又、スタッフ一人ひとりが学ぶように推進する。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議、ケース会議の中でも議題に設けスタッフ一人ひとりが細心の注意を払いながら防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	もっと気軽に話せるような雰囲気作りや日頃のコミュニケーションに努め、提案を聞く機会を設けていきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を認識し職員交代を行なう場合は十分検討しているが、急な離職などにより人事異動の時など引継ぎ期間を十分に取れない場合もある。	○	顔馴染みの職員による継続的なケアを心がけ、職員交代の場合もスムーズに移行できるように配慮していく。また、職員が長期的に継続勤務できるように、待遇面、福利厚生面の改善の検討を行い、働きやすい環境の提供ができるよう施策していきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保、向上に向けた育成の必要性を認識しており、職員の立場に応じて法人内研修として新入社員研修、計画作成者研修を実施している。又、事業所内外の研修に参加した職員は研修報告書を作成し、職員会議で発表してもらい、知識・技術の共有化を図っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所職員が集まり学習会を設け、意見交換できるように進めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が入居者と離れて一息入れられる場所や時間の確保ができるように努めている。又、法人内に相談窓口を設けてあり、さまざまな相談を受け対応していくことで、ストレスの軽減・背景を理解する取り組みを行なっている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法や労働安全衛生法に則って、労働条件を整え、健康診断を実施している。又、運営者は事業所でおきている状況変化の把握に努めており、事業所や職員が向上心を持って働けるように、事業所、職員評価を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の話に共感し喜怒哀楽を共にし本人の思いを深く知りえて共に支えあう関係作りに留意している。入居者は人生の先輩である事を職員は共有し、お互いに協働しながら穏やかな生活が出来る場面、声掛けをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には月に1度のお手紙で入居者の近況をお伝えし情報交換を行ない、継続して行くと共に面会や行事への参加をすすめスタッフと共に入居者に関わっていく機会を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者、ご家族、両者の思いを受けとめ行事に誘ったりしながら良い関係が継続できるように努めている。本人の日頃の状態を報告、相談し関係が途切れないように働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等の外出の機会を作って地域に暮らす馴染みの人、馴染みの場所、友人の家に出かけ継続的な交流ができるように働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話しを聴いたり、楽しく過ごす時間、気のあった者同士で過ごせる場所など関係がうまくいくように職員が調整役となるように心掛けている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了された方にも遊びに来て頂き、継続的なお付き合いができるように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から少しでも入居者の思いや意向を汲み上げ検討し、意思伝達が困難な入居者の方でも、毎日の生活の中から意志表示されていることを考えながら、把握するように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後の様子を観察し、その中で知り得る事を蓄積し、ご家族が面会にいらっしゃった時にも以前の暮らしぶりを聞くようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者との日々の関わりの中で1日の過ごし方を把握し些細な事から心身の状態や有する力を全体的に把握できるように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族、必要な関係者の意見を取り入れながら課題とケアのあり方についてスタッフ会議で話し合い、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人やご家族の意見を取り入れ期間が終了する前に見直しを行なっている。又、入院などで状態変化が見られた場合はケースカンファレンスを行ない、見直しを行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や変化、利用者の言葉をケース記録に記入し勤務前に必ず確認するようにしている。食事量、水分摂取量、バイタル等を生活チェック表に記録し、状態変化時には職員間で話し合う機会を設けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が安定した生活が送れるように民生委員やボランティア、運営推進会議メンバーに地域の情報を提供して頂いたり、ご協力頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム行事を行なう際は配食サービスやボランティアの方にお手伝い頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、地域包括支援センターを通じて他事業所や地域環境の情報交換や協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族が希望するかかりつけ医の受診を行なっている。変更する場合でもご家族と話し合い、納得の上で変更している。また、状態に応じて往診にも来て頂いている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	神経内科の医師と協力関係を築いており、職員の相談に応じて頂いたり、利用者の症状に応じて助言や指示を仰いでいる。		
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族と共に主治医や医療相談員と密に話し合いの場をもち家族の声を聞きながら早期退院に向けた支援を行なっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取り等についての事前意志確認書を頂いており、ご家族の意向を把握し尊重できるように取り組んでいる。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族には入所の段階から事業所の対応できない部分を説明し、納得して頂いている。重度化してきた利用者に対しては変化があれば随時、医師と連携し家族とも意志を確認しあいながら支援している。	○	入居者の気持ちを大切にしながらご家族と話し合う機会をもち、安心してホームで暮らせるように、医療機関との連携を深め状態変化に対応できるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>新しい住まいでもこれまでのケアの継続が保たれるように、ホームでの生活環境、支援内容、注意が必要なことについて情報提供し、きめ細かい連携が図れるように心がけている。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>他の家族や外来者に対してスタッフが入居者のプライバシーに関する話を話さないように、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わりかたをリーダーが点検し入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活の中で入居者一人ひとりの力に合わせて入居者自身が決定する場面を具体的に作って、入居者の意志を尊重して対応している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者個々の体調に配慮しながらその時の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>身だしなみも入居者の自己表現のひとつとして、本人の好みで整えられるように支援している。又、自己決定がしにくい入居者には、スタッフが一緒に考えて、鏡を見ながら本人の気持ちにそった支援を心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に採ってきた畑の野菜などの食材を使って一緒に調理をし食事を1日の大切な活動のひとつにしています。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸う入居者の方はタバコとライターをホームで預かり、他入居者が気にならないように配慮しながら自宅と同様に楽しめるようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のない入居者の方でも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り希望する時間に入浴して頂き、服を脱ぐ事を嫌がる方や入浴を拒む方については安心感を持って頂けるように工夫したり、言葉掛け、チームプレイで入浴を楽しめるように支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない入居者には原因を見極めてその人本来のリズムを取り戻せるように、日中の運動を促し生活リズムを整えられるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	遠出の外出や地域の行事参加等の楽しみごとを入居者と相談しながら行ない、得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	ご家族と相談しながら入居者一人ひとりの力や希望に合わせて、外出時や喫茶店のお金などは自分で払って頂けるように、入居者の状態に合わせた金銭管理支援に取り組んでいる。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天気や入居者の希望に合わせて、季節を肌で感じてもらったり、馴染みの店、場所に出かけている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	入居者が行きたいと思う遠くの場所の外出には、ご家族と相談し、計画を立て、スタッフの勤務を調整しながら実現に向けた取り組みを行なっている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	プライバシーや家族関係に配慮しつつ、日常的に利用できるようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	遠慮なく本人、家族だけでゆっくり過ごせる時間を作ったりなど、希望があれば泊まって頂けるように環境を整えている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送りで、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束がないか点検している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望のための外出にはスタッフが付き添い無理に止めないようにしている。スタッフは身体拘束排止に関する研修に参加しており、その必要性を理解している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個人の生活リズムに合わせて見守りの頻度を考え対応している。プライバシーに配慮し声を掛けるタイミングにも気を配っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や薬等は鍵のかかる棚に保管し、包丁などを使う場合は職員が見守りを十分に行ない、個人の状態に合わせた対応をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生の際は報告書を作成し原因と対策の検討を行なっている。又、防災訓練を行ないスタッフの体制作りと知識向上を図っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て蘇生術の研修を実施している。又、今後定期的な研修の実施を計画している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回入居者の皆様と避難訓練を行なっている。	○	年に1度はホームの避難訓練に、地域住民の方に参加して頂けるように、運営推進会議を通じて地域との協力関係の強化を図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	スタッフが入居者の状態変化に合わせてその都度リスクについて検討し、ご家族に相談し理解が得られるように対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の方の状態変化時には所長に連絡し、職員間で情報を共有し、スムーズな対応ができるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬記録にて内容を把握している。薬の変更においては、随時申し送り、確認している。記録はわかりやすく記入し、家族にも情報提供している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックを行ない、散歩や家事活動を設けて無理のない運動を促し、自然排便ができるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の自尊心に配慮しながら、個人の力に応じた毎食後の口腔ケアを支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、入居者別に食事や水分の摂取量を記録している。献立や食材は業者に委託してありカロリー計算がされている。入居者の状態に合わせて食事形態を検討し対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行ない、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。また、利用者及び家族に同意を頂き、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、毎晩漂白し清潔を心がけている。調理器具、台所水回りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて、実行している。食材は外注であり新鮮で安全な食材を使用している。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りを担当者が点検している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者や家族近隣の住民等の視点に立って、違和感や威圧感がないような配慮をし入居者の暮らし場所として安堵感を持ってもらえるように玄関回りや建物周囲の工夫を行なっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の掲示物コーナーを設けたり植物や装飾品で季節を感じて頂けるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係に配慮したソファやテーブルの配置を検討しています。リビング、食堂、和室の3つの空間を入居者のニーズに合わせて使用し寛いで頂けるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた寝具や日用品を持ってきて 頂き、本人の状態や好みに合った配置にしてもら い、個別の生活スタイルを作っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	朝、晩、天候に合わせて換気を行なっている。入 居者の様子を見たり、意見を聞きながら室温調 整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	入居者の身体機能の変化に応じ、トイレの手す りを使いやすい位置につけたり利用者の活動性を 維持するために必要に応じて車椅子を利用する工 夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	入居者の状態に合わせて環境整備に努めてい る。状態や状況に変化が生じた場合には、スタッ フ間で十分話し合いし、解決してくようにしてい る。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	園芸を趣味としている入居者が中心となり庭に 花などを植えたり、畑作りをして楽しみながら活 動できるようにしている。又、玄関先にベンチを 置いて日光浴ができるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない <input type="radio"/> ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・生活の中に四季を感じて頂けるように、月見や芋煮会、お盆などの行事を行ない、又、共有スペースの飾り付けや食事に季節感を出すようにしている。
- ・地域の行事に積極的に参加し、地域に密着した施設、サービス運営を行なっている。